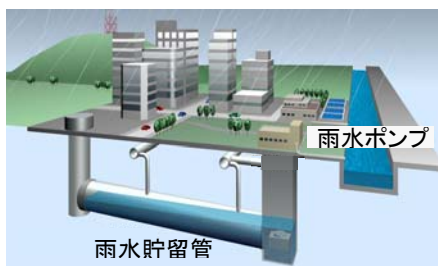


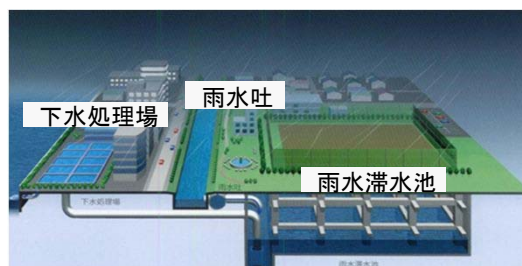
取組概要	進行管理の指標	平成28(2016)年度の実績	
合流改善用スクリーンの設置やポンプ場スクリーンの改善に継続して取り組むとともに、未処理下水の汚濁負荷や放流回数の削減を図るため、 雨水貯留管・雨水滞水池 ※などを建設してきたが、今後も建設事業を推進することにより、汚濁負荷の高い初期雨水対策を進める。	平成28(2016)年度末合流式下水道改善率68.5%	○合流式下水道改善率68.5% ○平成20(2008)年度に着手した大師河原貯留管の建設事業を推進 ○六郷遮集幹線建設事業に着手	
※雨水貯留管・雨水滞水池 汚濁負荷の高い初期雨水を一時的に貯留する施設（本市では多くの施設で浸水対策の役割を併せ持つ）		評価	B

3か年計画の総括	今後の予定	
○平成20年度に着手した大師河原貯留管建設事業の推進 ○ポンプ場スクリーンの目幅縮小7箇所実施（H26:3か所、H27:4か所） ○平成28(2016)年度に六郷遮集幹線建設事業に着手	【平成29(2017)年度】 ○大師河原貯留管建設事業の推進の継続 ○六郷遮集幹線建設事業の推進の継続 ○雨水吐き口への合流改善用スクリーンの設置	【平成30(2018)年度以降】 ○大師河原貯留管建設事業の推進の継続 ○六郷遮集幹線建設事業の推進の継続

評価	B
-----------	----------



雨水貯留管



雨水滞水池

IV 環境に配慮した行動の促進

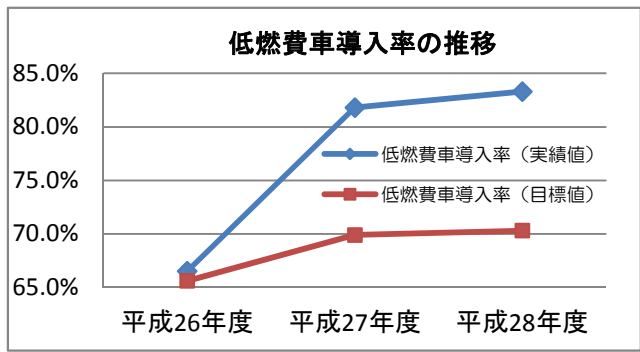
IV-1 事業活動における適正な環境管理

IV-1-(1) 市役所の率先した環境配慮の取組

上水 工水 下水

取組概要	進行管理の指標	平成28(2016)年度の取組結果	
市役所が率先して環境保全活動を推進することを目的に、温室効果ガス排出量の削減に向けた取組を全庁的に行い、公用車については、低燃費車を導入し、優先的に使用する。 低燃費車導入率(実績値) 平成24(2012)年度 60.0%(126台/210台)	平成28(2016)年度の目標値 低燃費車導入70.3% (209台中146台うちハイブリッド車7台)	低燃費車導入率83.3% (210台中175台うちハイブリッド車11台)	評価 A
		評価	

3か年計画の総括	今後の取組
公用車の代替時期に合わせて、可能な限り低燃費車を導入した。	公用車は代替時期に合わせて、順次低燃費車を導入
評価 A	



[3か年の低公害車導入率]

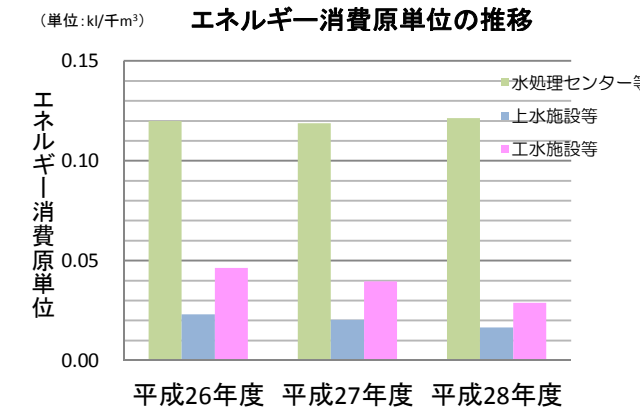
	目標	結果
H26(2014)年度	65.6%	66.5%
H27(2015)年度	69.9%	81.8%
H28(2016)年度	70.3%	83.3%

IV-1-(2) 省エネ法に基づくエネルギー管理の取組

上水 工水 下水

取組概要	進行管理の指標	平成28(2016)年度の取組結果	
省エネ法の改正(平成22(2010)年4月)に伴い上下水道局全体が「特定事業者」として指定を受け、エネルギー管理統括者等の選任、中長期計画書・定期報告書の作成を行う中でエネルギー使用量の把握・適正管理を行い、エネルギー消費原単位の低減を目指す。	○上下水道局全体で中長期における年平均約1%以上のエネルギー消費原単位*の低減 ○平成27(2015)年度エネルギー消費原単位 ・上水浄水場等 0.02034kl/千m ³ ・工水浄水場等 0.03967kl/千m ³ ・水処理センター等 0.1188kl/千m ³ *エネルギー消費原単位 エネルギー使用量をエネルギー消費と関連のある量で除した値で、エネルギー消費効率を比較するための単位(省エネ法の努力義務=年平均1%以上のエネルギー消費原単位の低減)	平成28(2016)年度エネルギー消費原単位 前年度比 3.4%低減 ・上水浄水場等 0.01654kl/千m ³ (18.7%減) ・工水浄水場等 0.02895kl/千m ³ (27.0%減) ・水処理センター等 0.1214kl/千m ³ (2.2%増)	評価 B
		評価	

3か年計画の総括	今後の取組
エネルギー使用量の把握・適正管理により、年平均1%以上のエネルギー消費原単位の低減を達成	中長期における年平均約1%以上のエネルギー消費原単位の低減を目指し、省エネルギー対策への取組を推進
評価 B	



[3か年のエネルギー消費原単位の低減率]

	前年度比	平均値
H26(2014)年度	2.5%	2.5%
H27(2015)年度	1.6%	
H28(2016)年度	3.4%	